

1 章

物質の区別

教科書 p.10~24

● 要点と重要用語の整理 ●

□①物体と物質…ものを用途や形に着目して区別する場合、そのものを ( ア ) という。材料に着目して区別する場合、その材料を ( イ ) という。

(ア)

(イ)

(ウ)

□②金属と非金属…電気をよく通す、みがくと ( ウ ) が出る、展性や ( エ ) がある、熱をよく伝えるという性質をもつ物質を ( オ ) という。金属以外の物質を ( カ ) という。

(エ)

(オ)

(カ)

□③有機物と無機物…炭素をふくむ物質を ( キ ) といい、( キ ) 以外の物質を ( ク ) という。有機物を燃やすと ( ケ ) や水が発生する。

(キ)

(ク)

(ケ)

□④プラスチック…プラスチックには、( コ ) (PE)、( サ ) (PP)、( シ ) (PET) などがある。

(コ)

(サ)

□⑤質量…上皿てんびんや電子てんびんを使って測定した重さは、物質そのものの量であり、( ス ) という。( ス ) の単位には ( セ ) [g] や ( ソ ) [kg] などが使われる。

(シ)

(ス)

(セ)

□⑥密度…物質の一定体積当たりの質量を ( タ ) といい、単位には、グラム毎立方センチメートル [g/cm<sup>3</sup>] などが使われる。

(ソ)

(タ)

$$\text{密度 [g/cm}^3\text{]} = \frac{\text{物質の質量 [g]}}{\text{物質の体積 [cm}^3\text{]}}$$

1 章

物質の区別

教科書 p.10~24

● 練習問題

1 物質の性質について次の問いに答えなさい。

(1) 金属の性質として正しいものを次のア～カからすべて選びなさい。

- ア. 金属は熱をよく伝える。
- イ. 金属は加熱し続けても変化しない。
- ウ. 金属は電気をよく通す。
- エ. 金属はたたいても形が変わらない。
- オ. 金属はみがくと特有のかがやきが出る。
- カ. 金属はすべて磁石につく。

(1)	
(2)	

(2) 有機物の性質として正しいものを次のア～ウからすべて選びなさい。

- ア. 有機物は加熱し続けると、すべて黒くこげて炭ができる。
- イ. 有機物は加熱し続けると、酸素が発生する。
- ウ. 有機物は加熱し続けると、二酸化炭素が発生する。

2 物質A～Eについて、体積と質量を測定したところ、下の表の結果が得られた。次の問いに答えなさい。

物質	A	B	C	D	E
体積[cm <sup>3</sup> ]	2.0	2.5	5.0	3.0	8.0
質量[g]	42.90	19.68	13.50	26.88	21.60

(1)	
(2)	
(3)	

- (1) 物質Aの密度を計算しなさい。
- (2) 物質Aの名称を次のア～ウから選びなさい。
  - ア. 鉄(1 cm<sup>3</sup>当たりの質量 7.87g)
  - イ. 銅(1 cm<sup>3</sup>当たりの質量 8.96g)
  - ウ. 白金(1 cm<sup>3</sup>当たりの質量 21.45g)
- (3) 同じ物質をA～Eから選びなさい。

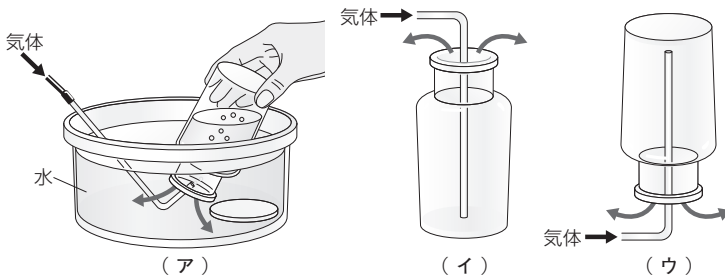
2 章

気体の性質

教科書 p.25~36

● 要点と重要用語の整理 ●

□①気体の集め方…水にとけにくい気体は ( ア ) で集める。水にとけやすい気体のうち、密度が空気よりも大きい気体は ( イ ), 空気よりも小さい気体は ( ウ ) で集める。



- (ア) \_\_\_\_\_
- (イ) \_\_\_\_\_
- (ウ) \_\_\_\_\_
- (エ) \_\_\_\_\_
- (オ) \_\_\_\_\_
- (カ) \_\_\_\_\_
- (キ) \_\_\_\_\_

□②酸素の性質…水にとけにくい。密度は空気よりもわずかに ( エ )。物質を燃やす性質(助燃性)がある。

- (ク) \_\_\_\_\_
- (ケ) \_\_\_\_\_

□③二酸化炭素の性質…水に少しとけ、水溶液は ( オ ) を示す。密度は空気よりも ( カ )。( キ ) を白くにごらせる性質がある。

- (コ) \_\_\_\_\_
- (サ) \_\_\_\_\_

□④窒素の性質…水にとけにくい。密度は空気よりもわずかに ( ク )。特徴的な性質はほとんどない。

□⑤アンモニアの性質…特有の刺激臭がある。水に非常にとけやすく、水溶液は ( ケ ) を示す。密度は空気よりも ( コ )。

□⑥水素の性質…水にとけにくい。密度は空気よりも ( サ )。燃える性質(可燃性)がある。

2 章

気体の性質

教科書 p.25~36

● 練習問題

1 下の表は、気体A～Dの1気圧、20℃における性質を示したものである。次の問いに答えなさい。

物質	1 cm <sup>3</sup> の水にとける体積[cm <sup>3</sup> ]	空気に対する密度の比
A：空気	0.019	1
B	0.018	0.070
C	702	0.60
D：二酸化炭素	0.88	1.53

(1)	B : C : D :
(2)	

(1) 気体B, C, Dの集め方として適当なものをそれぞれ次のア～ウから選びなさい。

ア. 水上置換法    イ. 下方置換法    ウ. 上方置換法

(2) 気体Cは、何か。次のa～cから選びなさい。

a. アンモニア    b. 酸素    c. 水素

2 気体E～Hは次の方法で発生させることができる。これらの気体の性質として正しいものを次のア～エからすべて選びなさい。

気体E…石灰石にうすい塩酸を加える。

気体F…アンモニア水を加熱する。

気体G…亜鉛にうすい塩酸を加える。

気体H…二酸化マンガンを過酸化水素水を加える。

ア. 気体Eを石灰水に通すと白くにごる。

イ. 気体Fには特有のにおいがあり、気体Fがとけた水は青色リトマス紙を変色させる。

ウ. 気体Gには燃える性質があり、適当な体積の比で気体Hと混ぜて燃やすと水が生じる。

エ. 気体Hには色にもにおいもなく、物質を燃やす性質がある。

--



3 章

水溶液の性質

教科書 p.37~48

● 練習問題

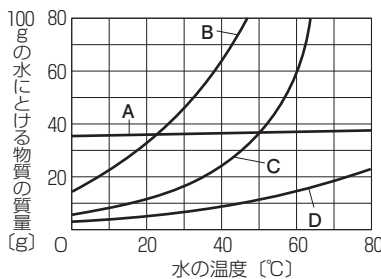
1 下の表のように、100gの水にとけるホウ酸の質量は、水の温度によって異なる。次の問いに答えなさい。

温度[℃]	0	20	40	60	80
ホウ酸の質量[g]	2.8	4.9	8.9	14.9	23.5

- (1) 100gの水にホウ酸20gを加えてよくかき混ぜた。水の温度が20℃のとき、とけきれないホウ酸は何gか。
- (2) (1)のとけきれないホウ酸をすべてとくすにはどうすればよいと考えられるか。次のア～オからすべて選びなさい。
  - ア. 20℃の水をさらに300g加える。
  - イ. 20℃の水をさらに400g加える。
  - ウ. 20℃の水をさらに500g加える。
  - エ. 水溶液の温度を60℃まで上げる。
  - オ. 水溶液の温度を80℃まで上げる。
- (3) (1)の水溶液を加熱してホウ酸をすべてとくしたあと、水溶液を40℃まで冷却すると、とけきれなくなって出てくるホウ酸は何gになるか。

(1)	
(2)	
(3)	

2 右の図は、水の温度と100gの水にとける固体の物質A～Dの質量との関係を表したグラフである。次の問いに答えなさい。



- (1) 水の温度が20℃のとき、もっともよくとける物質をA～Dから選びなさい。
- (2) 水の温度が40℃のとき、100gの水に30g以上とける物質をA～Dからすべて選びなさい。

(1)	
(2)	



4 章

物質の状態変化

教科書 p.49~61

● 練習問題

**1** 状態変化にともなう変化について次の問いに答えなさい。

(1) 次の文の ( ) に入る適切な言葉を選びなさい。

ビーカーに固体のろうを入れて (加熱・冷却) し、ろうを固体から液体に状態変化させ、ビーカーごと (体積・質量) を測定した。次に、ろうが液体から固体に状態変化したことを確認したあと、再びビーカーごと (体積・質量) を測定した。その結果、測定値には変化がなかった。

(2) ろうが液体のときの体積と、固体のときの体積についての説明のうち、正しいものを次のア~ウから選びなさい。

- ア. 液体から固体に状態変化すると、大きくなった。
- イ. 液体から固体に状態変化すると、小さくなった。
- ウ. 液体から固体に状態変化しても、変化しなかった。

(1)	
(2)	

**2** 次の5種類の物質を $-78^{\circ}\text{C}$ まで冷却したときと、 $110^{\circ}\text{C}$ まで加熱したときには、それぞれの物質はどのような状態になっていると考えられるか。下の表の(1)~(6)に入る言葉を答えなさい。

	融点 [ $^{\circ}\text{C}$ ]	沸点 [ $^{\circ}\text{C}$ ]	冷却時	加熱時
酸素	-218	-183	気体	気体
プロパン	-188	-42.1	(1)	気体
水銀	-38.8	357	(2)	(4)
エタノール	-115	78.3	(3)	(5)
水	0	100	固体	(6)

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	